



芝小だより

第六月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



運動会が終わった後には

校長 齋藤幸之介

過日行いました運動会には、猛暑ともいえる中、多数御参観くださいましたことに深く御礼を申し上げます。高温対策として午前中に二度の休憩を入れ、また種目によっては形を変えて対応をいたしました。工夫をしまいたつつもりですが、正直不十分な点もあつたであつたと反省をしております。来年度に向けての対策も考え始めておりますが、皆様にはアンケート等で御意見を頂戴できればと思います。

さて、以前子供たちには「晴耕雨読」について話をしたことがございました。運動会を終え、もうしばらくすると梅雨入りとなります。春の日差しの下体を鍛えることに焦点を当ててまいりましたが、これからは体育科以外の学習に重点を置いて教育活動を行っていききたいと思っております。

世の中の変化と学校のあり様と

世の中では、A-1は当たり前のように活用され、学校教育では、例えば本校のようにタブレットが平素の授業において一層頻りに活用されるようになってきました。前文部科学省補佐官の鈴木寛氏は、さらに進化する情報化社会が訪れる近い将来を、世界的な大転換期と表現しています。また、これもよく言われますが、近いうちに定型反復型の労働はA-1に取って代わられる、とも述べています。それに比べ、特に教育に携わる人たちは、昭和を引きずっている、とこの古き

を指摘しています(毎日新聞 令和元年五月二十二日 朝刊)。教育に携わる人に「校長」も入っており、耳の痛いところですが、改めて学校の役割を考えないと、とも思います。しかし、日本の学校でも、大きな成果を上げていることがあります。

「協同問題解決能力」を育む日本の教育

平成二十七年に実施された学習到達度調査で参加した五十二か国中、日本は協同問題解決能力が第二位でした。「シームの方が、一人よりいい決定をすると思う」と答えた割合が特に高い、というデータが出ています。「日本はグループの中で自分の役割を考え、物事を前に進める能力に優れている」という分析もされています。この一員として上げられるのは、運動会などの行事や学級活動などを行う特別活動の充実であるとも言われています(日本教育新聞 平成二十九年十一月二十七日)。ここに、日本の学校の素晴らしさを見出すことができるのではないのでしょうか。

さらに目指すべきこと

「協同問題解決能力」を育む際の特別活動の素晴らしさはお伝えしましたが、これはもちろん教科学習などでも培われなければなりません。また、課題とすべき能力の育成もあります。例えば、先程御紹介した日本教育新聞のまとめには、さらに進むグローバル化社会において、異質な意見や考えを持つ文化背景の異なる人と議論し、合意形成を図るための力を育むことが求められる、とあります。以前の学校だよりで

御紹介した京都大学学長の山極寿一先生は、対話をすれば、状況が刻々と変化する中で、自分の経験値や蓄積している知識をもとに発言することになり、発想力が鍛えられる、とおっしゃっています(毎日新聞 令和元年五月十七日 朝刊)。これからの学習をさらに改善するポイントとして「対話的な学び」が上げられますが、私共教職員は、「対話」「議論」の意味を改めて確認しなければならぬと考えています。

冒頭に御紹介した鈴木寛さんは、今後はA-1の有効性と共に人間にしかできない能力の重要性、すなわち、意思、意欲、好き嫌いの感情などや哲学を挙げ、これらを人間らしくしっかりと身に付けさせたいと述べています。そのために学校として取り組むべきは一つに対話ということになります。対話ができる学習はそう簡単ではありません。例えば、その学習に子供たちが解決しようとする問いがあること、この問いを解決する方法が明確になっていること、情報や結果を集めてその中から適切なことを見出すことなど、いくつもの過程を経なければなりません。ときには、適切な知識を身に付けてそれを道具として使えることも必要です。

本校の教員は今、改めてこのことを真摯に受け止め、そして授業改善に努めています。試行錯誤の連続でもありますが、その可否を問う意味も込め、私共は授業を公開してまいります。六月七・八日の学校公開、また二十二日の全国社会科教育研究協議会では、平素の成果をお見せできればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。